

2 旧宣統帝溥儀の動靜

811 昭和3年5月8日 田中外務大臣より
在天津加藤総領事宛(電報)

出口王仁三郎一派の宣統帝渡日計画につき取
調方訓令

本省 5月8日後3時40分発

第三三号

出口王仁三郎一派ノモノ貴地ニ到リ宣統帝ヲ此際日本へ誘
ヒ来ラムトスル計画アルヤノ情報アル処右事実御取調ノ上
至急回電アリ度シ

812 昭和3年5月10日 在天津加藤総領事より
田中外務大臣宛(電報)

出口王仁三郎一派の宣統帝渡日計画について

天津 5月10日後発
本省 5月10日後着

第六二号

天津 6月5日前発
本省 6月5日後着

第一三七号(至急)

奉天爆弾事件ノ裏ニハ日本人ノ策動アリ此ノ事件ニ関連シ
日本側ニ於テハ宣統帝ヲ満州ニ移シ復辟ヲ図ラムトノ陰謀
アリトノ報道奉天方面ヨリ六月四日当地日本通信員側ニ伝
ヘラレタルヤノ聞込アリタル処右ノ如キ風聞ヲ当地方邦字
新聞カ掲載スル事ハ時局柄面白カラスト認メ兩邦字新聞ニ
対シテハ不取敢スル記事ヲ掲載セサル様申聞ケ置キタルカ
宣統帝ハ目下醇親王ヲ始メ近親三十余名ヲ北京ヨリ当地ニ
呼寄中ノ事実モアリ又当地ニハ目下多数ノ新聞記者入込居
リ在来ノ通信員等モ大ニ活動シ居ル際ナレハ内地方面ヘモ
既ニ此ノ種報道ヲ伝ヘ居ルヤモ知レス御承知置相成度シ
在支公使、奉天ニ転電セリ

814 昭和3年6月10日 関東庁警務局長より
成毛(基雄)内閣拓殖局長
出淵(勝次)外務次官 宛

恭親王の時局に対する言動について

貴電第三三号ニ関シ
(八二文書)

今日迄ノ処ニテハ御来示ノ如キ事実アルヲ突止メ難キモ本
年一月中王仁三郎ノ一派ニ属スル岡崎鉄首ナル者来津張
弧、羅振玉等ヲ通シテ宣統帝ニ接近セントシ結局陳寶琛、
鄭孝胥等ヲ経テ「帝若シ大本教ニ帰依サルルニ於テハ教主
トシテ推戴スヘク教徒一同ハ帝ヲ渡日ヲ歓迎シ居ル」旨ヲ
申出タルモ余リ取合ハレサリシカ同人ハ更ニ田中総理ノ名
刺等ヲ振回シ総理ニ於テ宣統帝ノ日本行ヲ歓迎シ居ラルル
カ如キ言動ヲ為シ羅振玉一派ヲシテ大ニ乗気ナラシメシ事
実アリタリトノコトナリ宣統帝ハ昨今至ツテ平靜ニテ陳寶
琛等旧臣多数ノ意見モ目下ノ処ハ避難等ノ必要ナク南軍北
上ノ模様如何ヲ見タル上ニテ対策ヲ講スルモ遅カラスト為
シツツアルモノノ如シ
貴電ト共ニ北京ヘ暗送セリ

813 昭和3年6月5日 在天津加藤総領事より
田中外務大臣宛(電報)

張作霖爆死事件と宣統帝復辟との関連に關する
新聞報道について

関機高収第一五三一三号ノ二(極秘) (6月14日接受)
昭和三年六月十日 関東庁警務局長

内閣拓殖局長殿
外務次官殿

時局ニ対スル恭親王ノ言動
張作霖ノ死亡説ト共ニ目下大連星ヶ浦ニ閑居中ノ恭親王出
馬スヘシト伝ヘラレツツアルヲ以テ同親王ノ時局ニ対スル
意向ヲ内査スルニ左ノ如シ
一、出馬説ニ就テ

曩ニ濟南事件勃発當時張作霖下野後ハ私(恭親王)ヲ東
三省ノ首腦者トシテ擁立スヘキニ付承諾アリタシトノ交
渉南方側ヨリ再三アリタルハ事実ナルモ最近何レノ方面
ヨリモスル運動乃至交渉ヲ受ケタルコトナシ但シ東三省
及蒙古方面ニハ私ニ好意ヲ有スル者尠カラサルヲ以テ或
ハ密カニ策動シツツアルヤハ知ラサルモ私ハ全然関知セ
サル処ナリト擁立運動ヲ否定シタルカ若シ擁立運動具体
化セシ場合ハトテ語ル処ニ依レハ
二、時局ニ対スル意見

若シ私ノ擁立運動カ具体化シ四囲ノ状況カ私ノ出馬ヲ必
要トシ且ツ日本ノ皇帝陛下ニ於テ私ニ東三省ノ首腦者タ
レトノ御奨メアラハ喜ムテ出馬スヘシ而シテ若シ私ニシ
テ東三省ノ首腦者トナラハ東亞ノ大同団結ニ向テ邁進ス
ヘク多年ノ日支間ノ懸案タル商租問題ヲ直ニ解決シ真ニ
東洋ノ平和ノ為メ日支協力シテ英米露ノ西洋諸国ニ当ル
ヘシ現在支那ノ実権ヲ握レル政客及軍人ハ何レモ世界ノ
大勢ニ通セス英米露等ノ尻押しニ依リテ最モ親密ノ関係
ヲ有シ提携ヲ必要トスル日本人ヲ事毎ニ排斥シツツアル
ハ世情ニ通セサルモ亦甚シト言ハサルヘカラスト支那ノ
現状ヲ慨シ日本ノ諒解ト擁立運動者アラハ喜ムテ東三省
ノ首腦者タリ以テ日支ノ提携親善ニ努力セムトスル野心
アルモノノ如キ意向ヲ洩シ居レリ

815 昭和3年6月16日

木下(謙次郎)関東庁長官より
田中外務大臣宛

溥傑大連到着につき赴奉見合せ方勧告につ
いて

モスクワ 6月16日後発
本省 6月17日後着

第二二二号

十六日ノ「イズヴェスチャ」ハ上海「タツス」電報トシテ
宣統帝ハ大連ニ到着セルカ右ニ付晨報ハ同地白党露人カ滿
蒙掌握ヲ同帝ニ懇懇セルモ同帝ハ清朝顛覆後生存シ得タル
事ニ満足シ居レル事ヲ答ヘテ右懇懇ヲ拒絶セリト報スルモ
右報道ハ「チャイナ・クリチック」紙カ支那側ニ於テハ廢
帝ノ余リニ速急ナル大連行ヲ以テ同帝ヲ滿州皇帝ニ擁立セ
ントスル日本ノ企図実現ノ第一歩ナリ張死亡後滿州ハ混沌
タル状態トナリ廢帝ハ日本ノ指導者等カ能クスル外交辞令
ヲ以テ新登極ヲ宣シ日本ハ勿論中立ヲ声明スルナルヘシト
論シタルニ対照シテ考究スルヲ要ストノ記事ヲ掲ケタル後
批評ヲ加ヘテ曰ク上海ヨリノ報道ハ其ノ出所明カナラサル
モ事柄ハ刺戟性ヲ有ス廢帝ハ一九一一年ノ革命ニ依リ顛覆
セラレタル滿州王朝ノ代表者ニシテ曩ニ北京ヨリ馮ニ追ハ
レタルカ日本將校ニ助けケラレテ日本公使館ニ逃レ更ニ天津
ノ日本居留地ニ移サレテ日本ノ保護下ニ在リタルモノナリ
從テ同帝ノ運命ニ付日本ノ注意カ向ケラルル事ハ当然ニシ

第三〇号(至急、極秘)

本官発天津宛電報外第一三〇号

十五日發貴電ニ関シ

十六日午後五時半溥傑大連ニ着港シ星ケ浦ノ大和「ホテ
ル」ニ投宿セリ内密出迎シメタル中島翻譯官ヨリ宣統帝及
醇親王ニ於テ甚タ心痛シ居ラルル次第並此ノ際奉天ニ赴カ
ルルコトハ見合セラルル方然ル可キ旨懇説シタルニ溥ハ極
メテ良ク事態ヲ了解セラレ暫ク星ケ浦ニ滞在シ天津ヨリ出
迎ヘ人ノ来着ヲ待ツテ去就ヲ決スル旨答ヘラレタル趣ナリ
尚目立タサル方法ニ依リ身辺ヲ警戒セシメツツアリ
大臣、北京ニ転電セリ

816 昭和3年6月16日

在ソ連邦田中大使より
田中外務大臣宛(電報)

宣統帝の大連行に關連するソ連邦紙の論評に
ついて

テ此ノ注意カ政治的考究ヲ伴フ事モ亦当然ナリ然レトモ現
代日本ニハ君主独裁的感情ナルモノ殆ト存在セス殊ニ滿州
王朝ニ対シテハ何等ノ共鳴ヲ感スル者無シ二回ニ亘ル支那
ニ於ケル君主独裁復興ノ企画ハ何レモ失敗セリ仮ニ滿州ノ
ミニ限定シテモ滿州ハ既ニ民族ニ依ル滿州ニ非サルヲ以テ
此ノ際君主專制復興ヲ企ツルトモ其ノ實現ノ可能性乏シキ
事ヲ付記セサルヲ得ストナセリ

817 昭和3年6月16日

在ソ連邦田中大使より
田中外務大臣宛(電報)

カラハンに日本の滿州新政権承認説否定につ
いて

モスクワ 6月16日後発
本省 6月17日後着

第二二四号

十二日ノ「イズベスチャ」ハ東京「タス」電報トシテ風評
ニ依レハ佐藤將軍其ノ他ノ者カ田中首相諒解ノ下ニ滿州ニ
君主專制政權ヲ復興セントスル煽動ヲナシ居リ右ニ付テハ
数回外務大臣候補ニ擬セラレタル著名ノ実業家久原カ出資

関東庁 6月16日後発
本省 6月17日前着

シ又「セメヨノーフ」モ関係アル由ナリトノ報道ヲ掲ケタルカ十五日他用ニテ「カラハン」ト会谈ノ際「カ」ハ右風説ニ関シ右ハ首相カ日本政府トシテハ満州カ何人ニ依リ支配セラレルヤハ問題トナシ居ラストノ趣旨ヲ述ヘラレタルコトト対照シ興味ナキニ非ス或者ハ満州カ一王国トナラハ日本ハ之ヲ承認スルナルヘシト想像スルモノスラアリト述ヘタルニ依リ本使ハ田中首相ノ言ハ政治ニ関スルモノニ非スシテ例ヘハ満州カ張又ハ夫レ以外ノ何人ニ依リ支配セラレルトモ問題トセストノ趣旨ナリ日本カ満州政府ノミヲ切り離シテ承認スルナルヘシトノ憶測ノ如キハ所謂痴人ノ夢ニ類スト評スルノ外ナシト答ヘ置ケリ

818 昭和3年6月18日

田中外務大臣より
在英国佐分利臨時代理大使
在米國沢田臨時代理大使
(宛電報)

溥傑の大連到着および宣統帝の行動に関する
風説について

本省 6月18日後7時40分発

合第二三二二号

米宛ニハ「紐育、市俄古、桑港、ホノルルヘ転電アリタシ」ト付記アリタシ

819 昭和3年6月18日

在天津加藤総領事より
田中外務大臣宛(電報)

溥傑暫く大和ホテルに滞在について

天津 6月18日前発
本省 6月18日後着

第一九〇号

往電第一八九号ニ関シ

十七日関東長官ヨリノ電報ニ依レハ溥傑ハ十六日夕大連ニ着港シ星ケ浦ノ大和「ホテル」ニ投宿シタルヲ以テ内密出迎セシメタル中島翻訳官ヨリ宣統帝等ニ於テ痛心シ居ラルル次第並ニ此ノ際奉天行ハ見合ハセラルル方宜カルヘキ旨懇説シタルニ溥ハ好ク事態ヲ解シ暫ク星ケ浦ニ滞在ノ上天津ヨリ出迎人ノ来着ヲ挨テ去就ヲ決スル旨答ヘタル趣ナルカ関東当局ニ於テ目立タサル様監視中ナリトノコトナリ奉天ヘ転電セリ(北京ヘハ関東長官ヨリ転電済)

宣統帝ノ弟溥傑(醇親王ノ第二子二十二歳)ハ平素ヨリ張学良ト親交アリ予テ奉天工部学校入学ノ目的ヲ有セル趣ナルカ帝並父ノ承諾ナク十五日突然家出シ張学良ノ家族等ト共ニ奉天ニ赴クヘク海路大連ニ向ヘル形跡アルニ付大連ニ於テ本人取押方帝側ヨリ在天津加藤総領事ニ依頼アリタルニ付同総領事ヨリ関東庁ニ手配セルル処溥ハ十六日大連ニ着シ星ケ浦大和「ホテル」ニ投宿セリ依ツテ内密出迎ヘタル関東庁員ヨリ宣統帝及醇親王ニ於テ溥ノ家出ヲ心痛シ居ラルル次第並此際奉天ニ赴カルルコトハ見合ハセラルル方然ルヘキ旨懇説セルニ溥ハ良ク事態ヲ諒解シ暫ク星ケ浦ニ滞在ノ上天津ヨリ出迎人ノ来着ヲ待ツテ去就ヲ決スル旨答ヘタルニ付目下目立タサル方法ニ依リ身辺ヲ警戒セシメツツアル趣ナリ

尚最近張作霖遭難事件ニ伴フ満州政權ノ動搖ニ関連シ我方ニ於テ清室ノ復辟ヲ画策シ居ルカ如キ宣伝漸ク旺ンナラムトシ宣統帝大連行等ノ虚報ト張作霖遭難事件ヲ結ヒ付ケ兎角ノ報道ヲ為ス者有ルニ付御注意ノ上我方ノ態度ニ誤解無カラシム様隨時適當ニ御措置アリタシ

(英宛ニハ「仏、独、伊、露、白」ヘ転電アリタシト付記シ

820 昭和3年6月22日

田中外務大臣より
在英国佐分利臨時代理大使
在米國沢田臨時代理大使
(宛電報)

溥傑の天津帰還について

本省 6月22日後6時30分発

合第二三六号

往電合第二三三二二号ニ関シ

溥傑ハ清室ヨリ大連ニ派セル出迎者ト共ニ二十一日天津ニ帰還セル趣ナリ

往電合第二三三二二号同様転電アリ度シ

821 昭和3年6月28日

在天津加藤総領事より
田中外務大臣宛(電報)

新聞紙上に伝えられる宣統帝に関する風説に
つき陳寶琛の談話について

天津 6月28日後発
本省 6月29日前着

第二〇三号(極秘)

二十八日陳寶琛来訪近日来宣統帝ニ関スル謠言新聞紙上ニ

伝ヘラルルニ付御参考迄御伝ヘシ置キ度トテ左ノ通語レリ
一、帝ヲ東三省ニ移シ事ヲ拳ケントノ計画日本方面ニアリ
トノ事ナルカ過日工藤鉄三郎ナルモノ田中首相小川鉄相
ノ写真ヲ帝ニ献上スル為ト称シテ謁見シ帝ノ意志ヲ探リ
タル事アリ工藤ハ佐藤安之助、貴志彌五郎等ノ意ヲ受ケ
来津セルモノノ如シ

二、升允、羅振玉、萬繩栻、謝介石等ハ右計画ニ参与シ居
ルモノノ如ク工藤ハ彼等トモ折衝シ居リタルカ帝ノ意志
ハ素ヨリ自分等トシテモ右様ノ計画ニハ漫然賛成シ得ス
殊ニ謝介石ノ如キハ帝モ擯斥シ居ル人物ニシテ彼等ノ妄
動ニ依リ災帝ニ及フカ如キ事ハ万無カルヘキ筈ナルモ相
当警戒ヲ要スト考ヘ居ル次第ナリ

三、最近謝介石ハ大連經由奉天ニ赴キタルモノノ如クナル
カ右ハ奉天ニテ佐藤氏ト会见シ計画ヲ進行センカ為ナリ
ト伝ヘラル

北京、奉天ニ転電セリ

822 昭和3年8月20日

在天津加藤総領事より
田中外務大臣宛(電報)

鄭孝胥等渡日は宣統帝避難の場合を予想して
のことかと察せられることについて

天津 8月20日午後
本省 8月20日午後

第二四二号

鄭孝胥ハ十九日白井ニ対シ自分ハ陳寶琛ト共ニ近ク日本ニ
赴キ度キ所存ナリト告ケタル由ナルカ右馮玉祥軍当地方進
出ノ場合宣統帝避難ノ為渡日スルカ如キ場合ヲ予想シテノ
事カトモ察セラル出発期其ノ他一切未タ確定セサル趣ナル
モ不取敢

北京へ転電セリ

823 昭和3年9月17日

在天津加藤総領事より
田中外務大臣宛

陳寶琛等渡日の意向並びに宣統帝の近況につ

いて

機密第五九五号

(9月26日接受)

昭和三年九月十七日

在天津

総領事 加藤 外松(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

九月十七日付在支公使宛北機第一八四号往信写送付

件名

一 陳寶琛等渡日ニ関スル件

(別紙)

北機第一八四号

昭和三年九月十七日

在天津

総領事 加藤 外松

在支那

特命全権公使 芳沢 謙吉殿

陳寶琛等渡日ニ関スル件

本件ニ関シ八月二十五日付機密第一〇二号貴信敬承其後清
室側ヨリ陳寶琛、鄭孝胥等ヲ派遣スルコトハ表向沙汰止ミ
ノ姿トナリタルモ鄭孝胥ノミハ清室ヨリ一ヶ月半ノ賜暇ヲ
得全然個人ノ資格ニテ九月十八日当地出帆長安丸ニテ日本

留学生出身ナル其子息鄭垂同伴渡日スルコトナリ同人ノ
昵懇ナル太田外世雄ハ同船帰国スルヲ機会ニ日本ニ於ケル
同人ノ世話斡旋ヲ為スコトナリタリ
右ニ関シ鄭孝胥カ本官ニ語ル所ニ依レハ同人ハ明治二十七
年神戸領事館引上ケ当時領事トシテ本邦ヲ退去セル以来三
十余年再度渡航ノ機会ナカリシモノナルカ今回清室ヨリ賜
暇ヲ得全然個人ノ資格ニテ本邦各地ヲ漫遊シ度本邦ニテハ
先ツ京都ニ赴キ其旧知ナル長尾甲並狩野文学博士等ヲ尋ネ
専ラ文学詩談等ヲ試ミ次テ東京ニ赴ク予定ナルカ東京ニテ
ハ旧知小田切万寿之助ヲ頼リ行ク筈ニテ時節柄世間ノ疑惑
ヲ招クカ如キ言動ハ絶対ニ避クル方針ナリトノコトナリ
鄭今回渡日ノ目的ハ前記ノ通全然清室ト関係ナキモノナル
ニセヨ同人ト清室トノ関係並同人ノ性格思想等ニ顧ミ本邦
ニ於ケル同人ノ言論カ清室問題ニ及フモノアルヘキハ想像
ニ難カラサル所清室側近者等ノ内心ハ

一、近来支那政局不安定ノ為一般人ハ前清時代ノ政治ヲ
思ヒ満州及北方ニ於ケル要人中ニハ元ヨリ南方派要人中
(白崇禧ハ旗人出身ナレハ其一人ナリトモ云ハル)ニモ
復辟ノ思想ヲ有スルモノアリテ内々清室側ニ接近シ来ル

モノアル際ナレハ此事ニ対スル日本政府ノ真意ヲ確メタ
キコト

二、満州ニ於ケル清室私有財物処分ニ関シ日本要路ノ援助
諒解ヲ得タキコト

三、清室ニ対スル日本朝野一般ノ感情ヲ觀察シ置キタキコ
ト

ヲ希望シ居レリ鄭今回ノ渡日モ内々右様ノ動機ニ出テタル
モノト察セララルル節アリ

尚貴信末段ニ関シ山西軍憲ノ清室ニ対スル態度ハ至極良好
ニシテ客月三十日日本官カ帝ニ謁見セル際帝ノ談ル所ニ依レ
ハ東陵発掘事件善後処置ノ責任者タル商震ハ蔣介石ヨリ帝
ヘノ伝言伝達ノ為特別第一区(旧独逸租界)内某処ニ於テ
私カニ会见シ度シト申込ミ来リタルカ日本租界ノ寓居ニ於
テナラハ兎モ角支那行政権ノ及フ土地ニ行クコトハ面白カ
ラストノ考ニテ実行サレサリシ趣ナルカ東陵事件ニ付テハ
載沢ヲシテ北京ニ於テ商震ト会见セシメタルコトアリ又南
桂馨モ会见ヲ申出テタルコトアル由ニテ山西軍憲カ当地ニ
在ル間ハ清室ニ対シ兎ヤ角ノ事件発生スル様ノコトナカル
ヘシ

ニ代テ馮玉祥軍来津スルニモ至ラハ帝ニ対スル直接間接ノ
非難攻撃ハ自然擡頭シ来ルヘク日本租界内ノ寓居ニ引キ籠
リ居ラルル限り危害ノ身ニ及フ様ノコトナントスルモ精神
的ノ苦痛ハ漸次深刻ヲ加フルモノアルニ至ルヘク去リ迎手
輕ニ当地ヲ去ルコトモ亦清室トシテハ相当ノ困難アルモノ
ノ如ク殊ニ外国ニ避難スルハ社稷ノ地ヲ離ルル意味合ニテ

又宣統帝ノ近状ニ関シ帝ハ引続キ日本租界張園ノ仮寓ニ皇
后皇妃ト共ニ住居セラレツツアリ男女從僕三十余名近侍シ
陳寶琛、鄭孝胥、景方昶、胡嗣瑗、佟濟煦、等所謂清室駐
津(天津)弁事処職員日々出勤シツツアリ又駐京(北京)
弁事処長タル朱益藩モ時々来津伺候ス警護ノ為ニハ護軍ト
称スル清室傭人数名アル外当館警察署ヨリ専任巡査二名
(一名ツツ隔日交代勤務)巡捕六名(二名ツツ毎三時間交
交代勤務)ヲ派出シ居レリ

本年六月張作霖北京引上ケ後撰政王醇親王一族モ当地ニ移
リ来リ現ニ英租界ニ寓居中ナルカ醇親王及皇弟溥傑並皇后
ノ父榮源等ハ隨時張園ニ出入シ居リ帝毎日ノ起居ハ鄭孝胥
ヨリ毎朝史書ノ進講アル以外此等近親者ト應對ニ時ヲ過シ
居ラレ革命軍入津以前ハ自動車ニテ随時郊外競馬場ニ赴キ
散策セララルル様ノコトアリタリシモ最近ハ外出ヲ一切差控
ヘ居ラレ殊ニ東陵事件発生以後ハ此ノ事ヲ痛歎セラレ邸内
ニ祭壇ヲ設ケテ朝夕礼拝服喪セララルルニ至レル有様ニシテ
其日常生活ハ甚タ消極的トナレルヤニ見受ケラル革命軍入
津以来今日迄市上ニ於テ何等別段帝ニ対スル迫害ノコトヲ
耳ニセサルモ今後国民党部ノ跋扈甚シキニ至リ又ハ山西軍

側近者ノ間ニ異論少ナカラサルカ如シ羅振玉、升允、萬繩
栻、謝介石等一派カ帝ヲ大連或ハ旅順ニ移サントスル策動
ノ一端ハ此辺ニ原因スルモノカトモ思料セララル
右回答申進ス

本信写送付先外務大臣、貴信写ト共ニ在奉天総領事

